

試験報告書

依頼者 MAT ECH株式会社

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 AirCase UVケース

表題 ウイルス不活化試験

2020 年 09 月 30 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

ウイルス不活化試験

1 依頼者

MATECH株式会社

2 検 体

AirCase UVケース

3 試験概要

ガラス板(大きさ: 5 cm×5 cm)にインフルエンザウイルスのウイルス液を滴下し、試料とした。検体内の依頼者指定位置に試料を設置し、所定時間検体を作動させ、試料のウイルス感染価を測定した。

4 試験結果

結果を表-1に示した。また、使用細胞及び培地を表-2、試験条件を表-3に示した。

表-1 試料洗い出し液のウイルス感染価測定結果

試験ウイルス	対 象	log TCID ₅₀ /mL
インフルエンザ ウイルス	作動前	6.3
	検体作動30分後*	<0.5

TCID₅₀: median tissue culture infectious dose, 50 %組織培養感染量

試料: ガラス板にウイルス液(培養液を精製水で10倍に希釈したもの)

0.1 mLを滴下したもの

<0.5: 検出せず

* 検体内の依頼者指定位置に試料を設置し、検体を作動させた。

表-2 使用細胞及び培地

使用細胞	MDCK (NBL-2) 細胞 JCRB 9029株	
細胞増殖培地	10 %牛胎仔血清加イーグルMEM培地「ニッスイ」①[日水製薬株式会社]	
細胞維持培地	イーグルMEM培地「ニッスイ」①	1000 mL
	10 %NaHCO ₃	14 mL
	L-グルタミン(30 g/L)	9.8 mL
	100×MEM用ビタミン液	30 mL
	10 %アルブミン	20 mL
	0.25 %トリプシン	20 mL

表-3 試験条件

試験ウイルス	<i>Influenza A virus</i> (H1N1) A/PR/8/34 ATCC VR-1469 (インフルエンザウイルス)	
ウイルス液	細胞培養後のウイルス培養液を遠心分離して得られた上澄み液を精製水で10倍希釈	
試料	ガラス板(大きさ: 5 cm×5 cm)にウイルス液0.1 mLを滴下したもの	
試験操作	検体内の依頼者指定位置に試料を設置し、検体を作動させた。	
検体作動条件	30分(室温)	
試料の洗い出し	細胞維持培地, 2 mL	
作動前	調製直後の試料	
感染価測定方法	TCID ₅₀ 法	

以 上